

アジア金属労組連絡会議の系譜

金属労協／JCM国際局部長 岩井伸哉

はじめに

2016年9月2日-3日に京都国際会議場で最後のアジア金属労組連絡会議が開催されたが、ここに至るまで、前身となる取り組みが40年にわたって実施されてきた。今回、これまでの経緯を記し、今後の取り組みについて考えてみたい。

IMF東南アジア・リーダーシップ訓練講座 (1976年-1993年)

第1回 IMF東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1976年

開催場所：シンガポール

第2回 IMF東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1977年3月3日-12日

開催場所：マレーシア

会議言語：英語のみ

労働組合員とリーダーの権利と責任(講演)、各国の経済発展と国家開発における労働組合役割(参加者報告と

グループ討議)、IMFの組織構造と活動(講演)、地域開発への労働組合の役割(講演)、政治と労働組合(講演とグループ討議)、苦情処理(講演)、各国の労働運動(講演・参加者報告)、産業安全衛生(講演)、視聴覚資料とその利用法(講演)、労使紛争、ストライキとロックアウト(講演)、作業評価や作業分類への労働組合の役割(講演)、マレーシアの社会保障(講演)、労働組合法(講演)、東南アジア各国の労働関連諸法(参加者報告、労使関係(講演)、リーダーシップ構築(講演)、労使関係法(講演)、金属労働者が直面する課題(講演)。

会場や宿舍の手配はIMFIMC(IMFマレーシア協議会)が引き受け、開会や閉会時には、MTCU(マレーシア労働組合会議)などからの来賓も参加した。講座は、IMF東アジア地域事務所、労働組合役員、政府関係者による講演と、参加者による各国報告、参加者のグループ討議で進められた。グループ討議については討議報告を参加者が行っている。またリソースパーソンとして、UAWが講師を派遣、安全衛生や労働組合リーダーシップについて講演

を行っている。また参加者による工場見学も行っている。

第3回 IMF東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1978年1月18日-27日

開催場所：インドネシア・ジャカルタ

参加者：シンガポール10名、マレーシア8名、インドネシア数名

会議言語：英語のみ

IMFの組織構造と活動(講演)、各国の経済発展と国家開発における労働組合の役割(講演)、労使関係と労働法制(講演)、国家開発への労働組合の参加(講演)、各国の労働法制のもとでの労働者保護と維持(講演)、労働者教育：よりよい理解と調和のとれた労使関係の発展の手段として(講演)、産業安全衛生講演、各国労働運動(参加者報告)、団体交渉(講演)、リーダーシップ構築(講演)、視聴覚資料とその利用法(講演)、労働組合生協の戦略についての議論(討議)、産業化国における団体交渉の現状(講演)。

これまでの訓練講座を踏襲した内容であるが、第3回はインドネシア商工会

議所産業部門との昼食会が講座プログラムに導入されている。また、生協についての討議が行われ、最終日に参加者が討議内容を報告している。

第4回 東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1979年7月9日-18日

開催場所：フィリピン(フィリピン大学)

内ALEC)

参加者：フィリピン15名、シンガポール8名、マレーシア8名、インドネシア2名

会議言語：英語のみ

第5回 東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1980年6月19日-28日

開催場所：マレーシアポートディクソン

参加者：マレーシア20名、フィリピン2名、日本1名、タイ3名、シンガポール3名、インドネシア3名

会議言語：英語のみ

各国の労働運動(講演・参加者報告)、リーダーシップ構築(講演)、団体交渉

方法と戦略(講演)、産業調和に向けて

(講演)、団体交渉ロールプレイング(参加者)、各国労働法(講演・参加者報告)、労働組合法(講演)、苦情処理(講演)、苦情処理ワークショップ、組合員の権利と責任(講演)、コミュニケーション(講演)、東南アジアの金属労働組合が直面する課題(ワークショップ)、安全衛生(講演)、安全衛生ワークショップ、アジアでのIMFの活動と運動・日本の団体交渉(講演)

第5回にはIMF-JC本部からも参加している。日本からの参加は今回が初めて。

工場見学はマレーシア・ピストン社を訪問している。今回は使用者側講師の講演(産業調和に向けて)が手配されている。団体交渉の項目では講演に加え、労使に分かれたロールプレイ形式の活動が導入された。全般的にワークショップ形式で参加者が積極的に参加する内容へと変化している。

第6回 東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1981年11月19日～28日
開催場所：インドネシア・ジャカルタ

(YTKI：インドネシア人材開発センター)

参加者：インドネシア16名、マレーシア8名、シンガポール6名、フィリピン2名、タイ3名、日本1名

会議言語：英語のみ

各国の労働運動(講演・参加者報告)、マレーシアにおける団体交渉(講演)、団体交渉方法と戦略(講演)、苦情処理と労使紛争解決(講演)、安全衛生(講演)、組合員の権利と責任(講演) 労働組合のコミュニケーション(講演)、労働組合教育(講演)、労使協調に向けて(講演)、アジアにおけるIMFの活動(講演)。

前回に引き続きIMF-JC本部から参加あり。

工場見学は、PTホンダ・フェデラルとPTナショナル・ゴベルを訪問し、インドネシア副大統領への表敬訪問も行っている。参加者の中から級長・副長を選出し運営を行い、参加者の中から毎日日替わりで座長を担い、講義・質疑応答の司会を行うような形式の運営が採用された。

第7回 東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1982年11月22日～30日
開催場所：マレーシア・クアラ Lumpur

参加者：タイ4名、フィリピン2名、シンガポール3名、インドネシア3名、マレーシア15名、日本1名

会議言語：英語のみ

引き続きIMF-JC本部から参加あり。

第8回 東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1983年12月4日～11日
開催場所：タイ・サムトプラカーン

「Convalescent Home」
リハビリセンター

参加者：インドネシア2名、マレーシア4名、フィリピン2名、シンガポール4名、タイ20名

会議言語：英語のみ

IMFの活動と行動(講演)、各国の労働運動(講演・参加者報告)、各国の労使関係(講演・参加者報告)、リーダーシップ構築(講演)、効果的な労働者教育の実施(講演)、労働組合の団体交渉能力構築(講演)、安全衛生(講演)、安全衛生ワークショップ、ECの労使関係講演、団体交渉ロールプレイング、東南アジアの金属労働者が直面する課題(講演)。

開会ではナショナルセンター代表、FESおよびAAFLI(現ソリダリテイセンター)の代表、サムトプラカーン県知事、タイ労働省の代表に加え、在タイ日本大使館に労働省および日本の労働組合(同盟・当時)から派遣されていた書記官(高木剛一等書記官・当時)も出席している。

工場見学はNTC社とタイ・ホンダを訪問した。

訓練講座

開催日程：1984年11月25日～12月4日

開催場所：マレーシア・ペタリンジャヤ
「MTUC教育センター」

参加者：インドネシア4名、フィリピン2名、シンガポール3名、タイ2名、日本1名、マレーシア19名

会議言語：英語のみ

80年代のIMF活動計画(講演)、各国の労働法(講演)、各国の労働運動(講演・参加者報告)、雇用法(講演)、眼科に関する傷病防止対策フォーラム(講演)、苦情処理(講演)、苦情処理ロールプレイ、労働組合コミュニケーション、効果的な団体交渉のための調査の必要性(講演)、職場安全衛生(講演)、最近の日本の労使関係の動向とQCサークル(講演)。

工場見学はサンキョウセイキを訪問した。コミュニケーション、団体交渉、安全衛生など一連の項目ではIMF本部が講師を派遣した。

第10回 東南アジア・リーダーシップ訓練講座

開催日程：1985年12月3日～11日
開催場所：タイ・サムトプラカーン

「Convalescent Home」
リハビリセンター

参加者：インドネシア5名、日本1名、マレーシア5名、フィ

リピン2名、シンガポール2名、タイ18名

会議言語：英語のみ

アジアにおけるIMFの活動と行動

(講演)、各国の労使関係(講演・参加者報告)、各国の労働運動(講演・参加者報告)、リーダーシップ構築(講演)、国際労働運動(講演)、効果的な労働者教育の実施(講演)、工場見学、安全衛生(講演)、東南アジアの金属労働者が直面する課題(講演)、マレーシアにおける団体交渉(講演)、団体交渉(講演)、団体交渉(講演)、マレーシアにおける労働組合の発展(講演)、各国の労働運動(講演・参加者報告)、各国の労使関係(講演・参加者報告)、各国の団体交渉(講演・参加者報告)、効果的な労働者教育の実施(講演)、労働環境の改善(講演)、雇用と労使関係に新技術が与える影響(講演)。

IMF-JC本部参加者は、今回の会議の特徴として「ICFTU、AFLI、FESといった国際機関、国際協力機関の講師が多かったのが印象的であった。なかでもAFLIスローン講師による模擬団体交渉の講義にみられるように、駐在している地元に着目した活動を行っている様子が強くうかがわれた」との印象を述べており、「日本の労働組合も、距離の相対的な近さにあまえることなく、今後このような活動に着手せざるをえないのでは」と指摘している。

第11回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1986年11月17日-22日

開催場所：マレーシア・ペタリンジャヤ

第12回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1987年11月30日-12月6日

日

開催場所：タイ・サムトプラカーン

参加者：インドネシア4名、マレーシア6名、フィリピン2名、シンガポール3名、タイ20名

会議言語：英語のみ

IMF紹介(講演)、アジアにおけるIMFの活動と行動(講演)、リーダーシップと労働組合運動の発展(講演)、各国の労働運動(講演・参加者報告)、各国の労使関係(講演・参加者報告)、各国の団体交渉(講演・参加者報告)、効果的な労働者教育の実施(講演)、労働環境の改善(講演)、雇用と労使関係に新技術が与える影響(講演)。

工場見学はナショナル・タイを訪問。

第13回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1988年10月31日-11月5日

開催場所：マレーシア・ペタリンジャヤ

第14回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1989年9月25日-30日

開催場所：タイ・バンコク

第15回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1990年11月19日-26日

開催場所：マレーシア・クアラルンプール

第16回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1991年10月16日-17日

開催場所：マレーシア・クアラルンプール

第17回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1992年10月5日-10日

開催場所：マレーシア・クアラルンプール

第11回 東南アジア・リーダーシップ
訓練講座

開催日程：1993年11月15日-19日

開催場所：マレーシア・クアラルンプール

連帯セミナー
(1996年-2006年)

第1回 アジア連帯セミナー

開催日程：1996年1月10日-12日

開催場所：シンガポール「オーキッド・カントリークラブ」

参加者：日本8名、マレーシア6名、シンガポール10名

会議言語：英語、日本語

アジア太平洋地域の経済発展と国際労働組合運動(講演)、IMFの活動と政策・アクション・プログラム(講演)、シンガポールの状況とIMF-ISCの活動(講演)、マレーシアの金属労働者が直面する課題(講演)、金属産業における安

全衛生(講演)、各国の賃金闘争と金属労働者の主要課題-付加価値の分配と労働分配率(講演)、各国報告(参加者報告)。

IMFの地域レベルでの教育訓練活動から、個別活動へのシフトという方向性を受け、東南アジア・リーダーシップ訓練講座は終了となったが、IMF-JCのイニシアチブにより、地域レベルのセミナーを開催することとなった。第1回はシンガポールのIMF加盟組織の協力により、シンガポールの労働組合所有施設での開催となった。

会議言語を英語と日本語に設定し、東南アジアの英語圏からの参加(マレーシアおよびシンガポール)と、IMF-JC加盟組織からも広く参加者を募って実施した。最終日には今後も継続していくことを確認した。

第2回 アジア連帯セミナー

開催日程：1997年6月23日-25日

開催場所：シンガポール「オーキッド・カントリークラブ」

参加者：日本9名、マレーシア5名、フィリピン6名、シンガポール10名

会議言語：英語、日本語

マレーシアにおける労働情勢とIMF-MCの活動(講演)、フィリピンにおける労働情勢とIMF-IPCの活動(参加者報告)、IMFの活動-IMFの運動方針について(講演)、シンガポールにお

ける労働情勢とIMF-ISSCの活動(講演)、日本における労働情勢とIMF-JCの活動(講演)、アジア太平洋地域における経済発展と国際労働運動(講演)、金属産業における安全衛生(講演)、安全衛生に関する各国報告(参加者報告)、賃金闘争と課題に関する各国報告(参加者報告)。

第2回セミナーより、同じ英語圏のフィリピンからの参加を得た。

第3回アジア連帯セミナー

開催日程：1998年4月16日-18日

開催場所：シンガポール「オーキッド・カントリークラブ」

参加者：日本9名、マレーシア5名、フィリピン5名、シンガポール11名

会議言語：英語、日本語

議題「アジア経済危機と労働運動への影響」講演とパネル・ディスカッション
議題「アジアの労働運動の最近の動向」講演：労働運動の発展過程とアジアの状況、参加者報告：各国の労働情勢
議題「金属産業における職場安全衛生」

第4回アジア連帯セミナー

開催日程：1999年5月31日-6月2日

開催場所：シンガポール「オーキッド・カントリークラブ」

参加者：インドネシア5名、日本10名、マレーシア5名、フィリピン5名、シンガポール10名

リピン5名、シンガポール10名

会議言語：英語、日本語

議題「東南アジア各国の労働情勢講演」東南アジア地域の労働情勢、日本の労働情勢、マレーシアの労働情勢、タイの労働情勢、インドネシアの労働情勢、参加者報告：シンガポールの労働情勢、フィリピンの労働情勢

議題「経済危機と社会的セーフティネット」講演：経済危機に関するIMFにおける議論、パネル・ディスカッション
議題「職業安全衛生」講演：参加者報告

第4回よりインドネシアからの参加を得た。

第5回アジア連帯セミナー

開催日程：2000年6月28日-6月30日

開催場所：日本・横浜「メロンディアあざみの」

参加者：香港2名、インドネシア5名、韓国1名、マレーシア6名、フィリピン5名、シンガポール7名、日本41名

会議言語：英語、日本語

東南アジア経済の課題と展望(講演)
議題「アジアの状況を知るために」参加者による各国報告およびアジアの労働情勢(講演)

議題「アジアの課題を知るために」パネル・ディスカッションおよび分科会形式

のワークショップ、「中核的労働基準およびアジアの将来のための対策」フォーラム(児童労働(講演)、労働組合権(講演)、海外で事業を展開している企業の行動規範(講演))
日本国内で開催してきた国際労働セミナー(第37回)と同時開催。香港および韓国からも参加を得ている。

第6回アジア連帯セミナー

開催日程：2001年5月30日-6月1日

開催場所：シンガポール「オーキッド・カントリークラブ」

参加者：インドネシア6名、マレーシア6名、フィリピン6名、シンガポール12名、タイ6名、日本8名

会議言語：日本語、英語、タイ語、インドネシア語

議題「アジアの金属労働組合連動の直近の状況」講演および参加者による各国報告
議題「2002-2005年IMFアクション・プログラムとアジアの金属労働者の活動」講演およびパネル・ディスカッション

今回よりタイ語とインドネシア語の通訳を手配した。2001年12月にIMF世界大会(オーストラリア・シドニー)が控えており、アクション・プログラムの議論が行われていることから、連帯セミナーにおいても議論することとした。

第7回アジア連帯セミナー

開催日程：2002年6月6日-8日

開催場所：シンガポール「オーキッド・カントリークラブ」

参加者：インドネシア5名、マレーシア6名、フィリピン6名、シンガポール12名、タイ6名、日本8名

会議言語：日本語、英語、インドネシア語、タイ語

アジア太平洋地域の経済・労働問題の動向(講演)、2002-2005年IMFアクション・プログラムとは(講演)、アジア各国のセーフティネットの現状と課題について：東南アジア各国の現状と課題について(講演)、日本の最低賃金と雇用保険制度について(講演)、経済のグローバル化と金属産業の動向(講演)およびパネル・ディスカッション

東南アジア地域の参加を得て開催していることから、東南アジア金属連帯セミナーへ改称。

第8回アジア連帯セミナー

開催日程：2004年6月3日-5日

開催場所：マレーシア・クアラルンプール「ルネッサンス・クワラルンプール・ホテル」

参加者：台湾2名、香港2名、インドネシア8名、韓国6名、マレーシア14名、フィリピン

4名、シンガポール10名、
タイ6名、日本7名

会議言語：日本語、英語、タイ語、
インドネシア語、韓国語

日本の労働運動の歴史および労使関係
の現状と課題（講演）

労使関係の現状と問題点および労働法
の問題点（参加者による各国報告とと
りまとめ）

マレーシアの労使関係（講演）

アジア各国の金属産業における雇用確
保に向けた課題（講演およびパネル・
ディスカッション）

今回より各国持ち回りで開催するこ
ととなった。新たに台湾、香港、韓国
からの参加者を得た。東アジア地域か
らの参加を得たことから、名称を東・
東南アジア金属連帯セミナーへ改称。

第9回アジア連帯セミナー

開催日程：2005年6月16日-18日

開催場所：タイ・バンコク「インベリアル
クイーンズパーク・ホテル」

参加者：台湾2名、香港2名、イン
ドネシア8名、韓国8名、
マレーシア8名、フィリピン
3名、シンガポール9名、
タイ15名、ベトナム2名、
日本14名

会議言語：日本語、英語、タイ語、
インドネシア語、韓国語、中
国語

アジア地域における労働組合構築の現

状と課題（講演）

労働組合組織運営と組合財政について
（講演）

各労組の産業政策への取り組み状況と重
要課題について（各国報告とりまとめ）
タイの労使関係について（講演）

アジアの金属産業労組における産業政策
策定の重要性について（講演）
企業の海外進出に対する労働組合の対応
について（講演）

労働組合の対政府産業政策要求活動につ
いて（講演）

アジアの金属産業労組組織強化を目指し
て（パネル・ディスカッション）

IMF未加盟であるが、将来加盟が見
込めるフィリピンとベトナムの金属産別
組織が参加者を派遣した。

第10回アジア連帯セミナー

開催日程：2006年6月15日-17日

開催場所：ベトナム・ハノイ「シエルト
ン・ハノイ・ホテル」

参加者：バングラデシュ1名、台湾2
名、インド2名、インドネ
シア6名、韓国6名、マレ
シア8名、フィリピン4
名、シンガポール9名、ス
リランカ1名、タイ6名、
ベトナム10名、日本16名

会議言語：日本語、英語、タイ語、韓
国語、インドネシア語、中
国語、ベトナム語

東南アジア経済の課題と展望（講演）

IMFの国際連帯活動とアジア地域の
活動について（地域事務所からの報告）
アジア労働運動の現状と国際連帯活動
（講演）

グローバル経済におけるアジア地域金
属産業の現状と課題、その対応につい
て（講演）

アジア金属産業の将来とアジア金属労
組の国際連帯（講演およびパネル・デ
ィスカッション）

地域別分科会：各国労組がグローバル
化にどのように取り組んでいるか、現在
の問題点は何か。IMF国際連帯に貢
献できること、期待できることは何か。

IMF-JC提案の「アジア地域連絡会
議」構想をどう受け止めるか。

IMF南アジア地域事務所より「南
アジア地域の加盟組織も招待してもら
いたい」との要望があり、数名の参加を
呼び掛けた。同時に太平洋地域の加盟
組織に対しても参加を呼び掛けた。ア
ジア全域を対象とすることとなったた
め、アジア金属連帯セミナーへと改称
した。

他のGUFのアジア太平洋地域組織
(UNI-APRO)から講師を招聘し、
講演を通じて地域活動の理解を深めた。

アジア金属労組連絡会議 (2007年-2016年)

アジア金属労組連絡会議

パイロット会議

開催日程：2007年6月21日-22日

開催場所：シンガポール
「ヨークホテル」

これまでの勉強会的なセミナーから、
アジア太平洋地域のIMF加盟組織の
代表が一堂に会し、地域における連帯強
化や、直面する課題への対応などにつ
いての経験共有を行う目的で、「連絡会議」
へと発展させた。しかしこのような活動
に対し、他の地域のIMF加盟組織や
IMF本部・地域事務所の一部から「I
MF-JCはアジアにおいて分派活動を
行おうとしている」との意見が寄せら
れたため、2007年の連絡会議を「パ
イロット会議」と位置づけ、IMF本部
などへの理解促進の活動を同時に進め
ることとした。

パイロット会議では、連絡会議を「I
MFの地域活動を補完」物事を決定す
る場ではない。「金属労働者の共通課題
を共有」「課題への対応についての経験
を共有し、各国の労働組合活動に資す
る」と性格付け、今後も継続して開催す
ることとした。

連絡会議はアジア太平洋地域のIM
F加盟組織および未加盟ではあるが、
将来加盟が見込めるような金属産業の
労働組合を招聘し、通訳体制も基本的
に日本語、英語、中国語、インドネシア語、
韓国語、タイ語、ベトナム語を手配し
会議中のコミュニケーションの充実を
図ってきた。開催は連帯セミナー
の後半年同様、各国持ち回りで開催
とした。

今後の取り組み

今号の「ワールドナウ」で小島正剛顧問がアジアの金属連帯という視点からこれまでの講座やセミナーを記していただいております。最後に「新時代の運動展開を」ということで、いくつかの貴重なアプローチを提示していただいている。それは、「第4次産業革命の到来がアジア太平洋地域各国の労働の世界、労使関係、労働運動にどのようなインパクトを与えるか」「インダストリアルにおける地域レベルの連帯に、これまでの訓練講座、セミナー、連絡会議というレガシーをどう生かしているか」「ア

クシヨンプランに掲げられた目標達成のために、アジア太平洋地域でどう取り組んでいけるか」という視点だと考える。今後の可能性として、「地域の加盟組織の連帯醸成と経験共有の場」、「インダストリアル地域活動の補完・アクションプランの地域における展開」、「新たな時代の産業雇用への対応」という視点を持って検討していくことが必要であると考える。

ICT・電機・電子産業や繊維・皮革衣料・靴産業におけるサプライチェーン体制はすでに新しいものではないが、安全衛生、生活賃金、雇用保障など依然として多くの課題を抱えている。さらに将来を見据え、インダストリー4.0/第4次産業革命への労働組合の対応も検討していく必要がある。

産業の労働者の結集ということを生かしたプログラム作りなど、取り組みの意義は大きいと言える。

第2回世界大会以降、インダストリアル・グローバルユニオンの活動の軸は各地域に焦点を当てていくことになっている。規約上もアクションプランにおいても、地域での取り組みが強調されている。アジア太平洋地域では、これまでのレガシーを基礎に、今後、インダストリアル本部、地域事務所、アジア太平洋各国の加盟組織、とりわけ日本の加盟組織と連携しつつ、次の仕様の地域連帯の構築に取り組みで行きたい。

<p>第1回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2008年6月26日－27日 開催場所：マレーシア・クアラルンプール [ルネッサンス・クアラルンプール・ホテル] 議題：1. 不安定労働への対応 2. アジアの労働運動の展望と課題－発展の可能性を模索する 3. 次回会議のテーマ</p>
<p>第2回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2009年6月25日－26日 開催場所：タイ・バンコク [ラディソンホテル・バンコク] 議題：1. 世界経済危機とアジア太平洋の労働組合の対応 2. IMFアクション・プログラムのアジア太平洋地域における展開 3. 不安定労働に対抗する活動に関するフォローアップ－2009年活動提案－ 4. 次回会議のテーマ</p>
<p>第3回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2010年5月31日－6月1日 開催場所：ベトナム・ハノイ [メリア・ハノイ] 議題：1. 基調講演 [2009年－2013年 IMFアクション・プログラムについて] 2. 危機への対応 3. 不安定労働 4. 気候変動 5. 多国籍企業労働組合ネットワーク構築 6. 迅速な連帯行動 7. パネル・ディスカッション [ネットワーク構築、組織化、連帯] 8. 次回の会議</p>
<p>第4回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2011年6月23日－24日 開催場所：韓国・ソウル [三井ホテル] 議題：1. GUF統合 2. ネットワーキング 3. 組織化</p>
<p>第5回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2012年5月29日－30日 開催場所：中華民国・高雄 [高雄福華大飯店] 議題：1. 2009－2013 IMFアクション・プログラムのフォローアップ 2. インダストリオールの結成への対応－労働組合間協力のガイドライン策定に向けて 3. 今後のアジア金属労組連絡会議のあり方について</p>
<p>第6回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2013年4月22日－23日 開催場所：シンガポール [NTUCクラブ・コスタサンズ・リゾート] 議題：1. 金属産業の状況及び、各国金属産業労組の活動について 2. アジア太平洋地域における強力な労働組合構築に向けて 3. 最低賃金の動向と課題 4. 次回のアジア金属労組連絡会議について</p>
<p>第7回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2014年4月10日－11日 開催場所：ベトナム・ホーチミン市 [ニューワールド・サイゴン・ホテル] 議題：1. インダストリアル活動報告 (本部報告/地域事務所報告) 2. 金属産業の状況及び、各国金属産業労組の活動について 3. アジア太平洋地域における強力な労働組合構築に向けて 4. 不安定雇用について 5. インダストリアル・アジア太平洋地域大会に向けて 6. 次回のアジア金属労組連絡会議について</p>
<p>第8回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2015年6月9日－10日 開催場所：マレーシア・ペタリンジャヤ [ヒルトン・ペタリンジャヤ] 議題：1. インダストリアル活動報告 (本部報告/地域事務所報告) *第2回世界大会に向けた課題 (アジア太平洋地域における強力な組合構築・規約改正・女性参画などについて) 2. 金属産業の状況及び、各国金属産業労組の活動について 3. 不安定雇用について 4. 2015年ASEAN経済協同体創設に向けた組合の役割 5. 今後のアジア金属労組連絡会議について</p>
<p>第9回 アジア金属労組連絡会議 開催日程：2016年9月2日－3日 開催場所：日本・京都 [京都国際会議場] 議題：1. アジアの金属労組が直面する課題 2. 課題の克服に向けて 3. アジア金属労組連絡会議の経緯と精神 4. インダストリオールのアジア地域金属労組の今後の協力 5. 提起：[インダストリアル・グローバルユニオンを支えるアジアの金属労組]</p>